

現在検討している案について。

山田和樹（東海大・国際文化学部）

1：駅前への商店街を誘致。

現地雇用確保のために必要である。大型デパートでは、大規模な現地雇用の確保は困難である。一方の商店街では、1店舗ずつの考慮となる為に雇用に関して比較的有利である。これを後述の4にあてはめる事も可能である。

2：下宿の整備、更には増設。

学生に安心して生活してもらえるための環境が重要である。尚、近年の不況による学生の金銭負担も考慮して、可能な限り安価での提供が望ましい。私が東海大学湘南校舎に学内留学した際には、月の宿泊費、食事代合わせて3万5000円と言う安価であった事を考えれば、江別市内ではさらに低価格での提供が可能と考える。

3：4大学の統合。4大学のカリキュラム統合。

4大学はそれぞれの専門としている科目が異なる為、4大学を統合する事でそれぞれの長所を生かしたまま、経費の削減などが可能になる。困難な場合は学生により自由度の高い授業を提供できるようにするために、4大学の各セメスターを統合。学生に4大学それぞれに好きな科目を採れるように配慮する。

4：学生による起業。

学生には早期の段階での社会勉強の場を提供すべきである。たとえばインターンシップがそれに当たるかもしれないが、インターンシップでは経営者の視点の見方が出来ない。そこで経営者としての視点を持てるような環境を作り、学生起業家を育成、輩出する体制を構築すべきである。また、1の商店街構想と合わせ、学生に商店街を作らせるというのも可能である。

5：職人の育成。

単純に平均的な人間を育成するのではなく、位置方面に特化した才能を発掘し、精錬する事で職人を育成すべきである。たとえばウェイター等の職業は、レストラン経営者にとって料理の質に匹敵する問題である。故に大学には、学生に職業訓練の専門カリキュラムを設けることを提案する。

6：育児・産休等への理解。

これは市に対する要望である。街の活性化には不可欠なものである。現在、出生率の低下などが問題にされているが、これは衰退している市町村などでは更に大きな問題となる。仮に学生による活性化が出来たとしても、地域の出生率が向上しなければ一過性の物であるにすぎない。市側には育児・産休に関する優遇処置を採択される事を願う。